

II 肝炎ウイルスの種別と日常生活での感染予防

1 肝炎ウイルスの種別

肝炎の種別	ウイルス型	キャリア	肝がんとの関係	備考
伝染性肝炎 (経口感染)	A型 (HAV)	無	無	以前は3月、4月に多発。 近年は年中散発的に。
	E型 (HEV)			豚肉、猪肉を生で食べると 感染することあり。
血清肝炎 (血液感染)	B型 (HBV)	有	有	持続感染者（キャリア）が 存在。 母子感染予防が重要。
	C型 (HCV)			持続感染者（キャリア）が 存在。
	D型 (HDV)		?	HBV感染者に重複感染。 日本は感染者はごく少数。

吉澤浩司ほか：ウイルス肝炎 診断／予防／治療、文光堂、2002、pp2-5一部改変

ウイルス性肝炎は感染経路によって大きく2つに分けられます。主に食べ物で感染（経口感染）するのがA型肝炎・E型肝炎で、血液を介して感染（血液感染）するのがB型肝炎・C型肝炎・D型肝炎です。B型肝炎・C型肝炎のそれぞれの感染経路は15ページと19ページで詳しく説明しています。

2 日常生活における感染予防

(1) B型肝炎・C型肝炎共通の感染予防

B型肝炎ウイルス（HBV）、C型肝炎ウイルス（HCV）は、血液や体液を介して感染します。そのため、血液や体液の処理に気を付ければ、日常生活で感染することはほとんどありません。

例えば、**肝炎ウイルスに感染している人と次のような行為をしても、感染することはありません。**

- 握手をする
- ハグする
- 軽くキスをする
- 同じお風呂に入る
- 同じ食器を使う
- 隣に座る



感染が起きるのは、次のような場合です。

- 感染している人の血液を傷のある手で触った場合
- 感染している人の血液が付着した針を誤って刺した場合
- 注射器や注射針を感染している人と共用した場合（麻薬など）
- 感染している人が使った針などの器具を十分な消毒を行わず、ピアス、入れ墨、アートメイクなどに使った場合

⇒健康な皮膚はウイルスを通しません、傷のある皮膚や粘膜はウイルスを通します。

- 感染している人と性交渉を持った場合

⇒HCVは比較的まれですが、HBVの感染はしばしば起こります。

- HBV、HCV陽性の母親から生まれた子ども（今はまれ）

⇒HBVは予防措置（6ページ参照）を正しく受ければ、ほとんど感染は起こりません。HCVの母子感染の確率は数%です。

II 肝炎ウイルスの種別と日常生活での感染予防

感染を拡大させないために、次のような事を守りましょう。

- 血液が付着する可能性のあるものを他人と共用しない
(例：歯ブラシ、カミソリ、ピアスなど)
- 血液や分泌物の付着したものは、むき出しにならないように
しっかり包んで捨てるか、流水でよく洗い流す
- 外傷、鼻血、月経血などはできるだけ自分で手当てする
- 入れ墨はしない
- 乳幼児に口移して食物を与えない
- 感染している可能性のある人は献血しない

(2) B型肝炎のワクチンによる感染予防

B型肝炎はワクチンにより感染を予防することができます。

40歳までにワクチンを接種すると9割以上の方が免疫を獲得し、感染予防効果が20年以上続くと考えられています。

ア 乳幼児への定期接種(ユニバーサルワクチン)

2016年10月から0歳児への定期接種が開始され、お住まいの市町で無料で接種が受けられます。

このワクチンは、生後2か月から1歳までの間に計3回接種するものです。家族内に母親以外のB型肝炎キャリアがいる場合は、生後2か月まで待たずに早期接種することが望ましいとされているので、主治医にご相談ください。

イ 母子感染予防のためのワクチン接種

母親がHBs抗原陽性の場合、出生時(12時間以内)にB型肝炎ワクチンと抗HBs人免疫グロブリンを投与します。その後、生後1か月、6か月の計3回接種することが推奨されています。

この予防接種により、9割以上の新生児で感染が防止できます。

母親がHBVキャリアでも、感染予防処置を行えば、母乳哺育を含めた通常の育児が可能です。

ウ 希望者へのワクチン接種

医療従事者、パートナーや同居家族がB型肝炎の方、透析患者や臓器移植を受けた方などはB型肝炎ワクチン接種が推奨されています。大人の場合も、乳幼児と同様に計3回接種します。

40歳を過ぎてから接種しても8割程度の方が免疫を獲得できると言われています。

3 肝炎ウイルス検査

HBV・HCVに感染していても自覚症状がないことが多く、気が付かないうちに慢性肝炎から肝硬変や肝がんへ進行することが問題となっています。適切な治療を受けることにより、肝炎ウイルスを制御したり、排除したりすることが可能です。

自分自身の早期治療と周囲の人への感染予防のため、**一生に一度は肝炎ウイルス検査を受けましょう。**

肝炎ウイルス検査は職場の健康診断・妊婦健診・住民健診・区市町の委託医療機関など、様々な機会で行われます。

行政が実施している検査の対象者や受け方などは39ページで詳しく説明しています。

また、肝炎ウイルス検査で陽性と判明した場合は、重症化を予防するために**肝臓の専門医療機関を受診することが重要**です。

専門医療機関での精密検査や、ウイルスを制御・排除する治療に関する助成制度は42～64ページで詳しく説明しています。